

## 「服の日」

2月9日は2(ふ)9(く)の語呂合わせから日本ファッション教育振興協会及び全国服飾学校協会などが制定した「服の日」。服を着る楽しさを広め、衣服への興味関心を高めるために定められました。この機会に沖縄発のアパレルに触れてみては？



少年用の冬の紅型衣裳。  
黄色地牡丹尾長鳥霞文様紅型縮緬衿衣裳  
(那覇市歴史博物館提供)

琉球王国時代は身分制によって、着るものの色や素材、文様や柄の大きさなどが決められていました。王家の染織品は、中国から輸入された絹織物と、王国内で製作された高い品質の芭蕉や芋麻※、木綿などの布地が用いられ、貴重な染料や顔料がふんだんに使われ、鮮やかな色を生み出していました。そのため、鮮やかな色合いと大柄な文様のものを着用しているのは、王家や士族に限られ、一般庶民が華やかなものを着ることはありませんでした。

琉装は和服の着物と似ていますが、異なるのは女性は帯で固定しないという点です。これは沖縄の暑い気候を考慮して、風を通しやすい着方が考えられたとも言われています。

## 「かりゆしウェア」はいつ登場した？

1970年に「沖縄観光の父」と呼ばれた宮里定三氏の発案で、沖縄の暑い夏を快適に過ごすとともに、観光沖縄をPRするために「沖縄シャツ」の名前で発売されたのが、かりゆしウェアの始まりです。

時代によって  
服装は  
変わったんだニャ



## 沖縄発のアパレルブランドが増加

かりゆしウェアだけでなく、沖縄でのリゾートステイを楽しむドレスや、南国らしいモチーフがたくさん散りばめられたファッションアイテムなど、沖縄には県内外で人気のアパレルブランドがあります。沖縄で育った藍を使ったり、オリジナルのテキスタイルで小物を作るなど、どのブランドのものでも沖縄らしさを感じられるアイテムばかりです。



琉球王国時代の国王や王妃、士族が着ていた美しい紅型や、一般の人々が着ていた琉装に始まり、洋服の着用への移り変わりから現代の沖縄アパレルブランドの誕生と、時代ごとのニーズで変化してきた沖縄のファッションの変遷を紹介します。

## 琉球王国時代はどんな服装だった？

## 着物から洋装に変わったのはいつ頃？

明治時代初期はまだ和装が一般的でしたが、上流階級の男性が西欧と並ぶ近代化を目指して洋装を取り入れるようになると、皇族の対外的な服装や官僚の制服、軍服などが徐々に洋装へと変わっていききました。



かりゆしウェアの下げ札  
(沖縄県衣類縫製品工業組合提供)

であることです。沖縄県衣類縫製品工業組合は、かりゆしウェアの製造に必要な設備と技術を有する事業者に対して、その証明として「かりゆしウェア」の下げ札を発行しています。

# タイムマシン

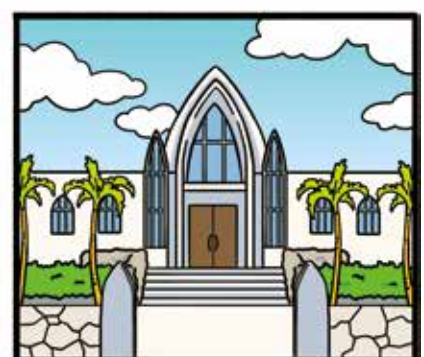
第10回 ファッション編

タマ

イリオモテヤマネコ。  
特殊な機器を取り付けると、なんでもタイムマシンに変えられる。

ヘイワ

小学4年生。  
平和主義者。  
パイン好き。



戦後の活気ある市場(那覇市歴史博物館提供)



黄色地鳳凰牡丹文様紅型縮緬衿衣裳(那覇市歴史博物館提供)



沖縄の結婚式の出席者(1946年 沖縄県公文書館所蔵)

★着るもので気分は変わります。特別な日はぜひお気に入りの一着で。



沖縄県 バス モノレール  
バス通学費等支援

入学前申請  
2/9 月から



沖縄県 バス モノレール  
バス通学費等支援

入学前申請  
2/9 月から

